

# 八代演能会

と き 11月14日(金)  
開演：午後6時 (開場：午後5時)  
ところ 厚生会館

主 催 八代妙見祭活性化協議会、妙見祭と能を考える会、八代市



## 演目／出演

能 「枕慈童」／

櫻間右陣 (シテ方金春流)

狂言 「蚊相撲」／

野村萬斎 (狂言方和泉流)

仕舞 「胡蝶」／松井笙子

連吟 「高砂」／つるまる保育園児

9月16日(火)チケット販売開始

全席指定 3000円

販売窓口

八代商工会議所 ☎326191

八代よかとこ宣伝隊 ☎318200

## 能楽と八代妙見祭

ユネスコ無形文化遺産の「能楽」は、八代では江戸時代から細川家・松井家を守り伝えてきており、とても関わりの深いものです。

その影響を八代妙見祭にも見ることが出来ます。例えば、笠鉾のさまざまな飾りも「菊慈童」や「蘇鉄」「西王母」など謡曲(能の台本)に登場するおめでたい題材が選ばれています。これは、天下泰平や八代の繁栄、市民の不老長寿を願うとともに、感謝の気持ちを表しているものと考えられます。現在でも、数多くの能楽愛好団体によって八代の能楽は脈々と受け継がれています。

## 能「枕慈童」



古代中国、山の麓から霊水が流れ出るというので、原流を探そうと帝が勅使を派遣します。勅使は菊の花が咲き乱れた山中の庵に700年も前の周の穆王に仕えていたという一人の少年を見つけて驚きます。

少年は、王の枕を跨いでしまったので罰としてこの山にいます。悪意が無いのを憐れんで王様から二句の偈を書いた枕を頂いたことを話します。少年は菊の葉にその文字を写し書いて、たまつた露を飲んでいましたが、実はそれが霊薬だったのです。おかげで長生きしていたことに驚いた少年は楽しく舞いを舞ったあと、帝に捧げ、そのまま山中の庵へと帰っていきます。

## 狂言「蚊相撲」

召使を一人しか持たない大名が、新参者を召し抱えようと思いた郎冠者を遣いに出します。太郎冠者は街道で相応しい男に声をかけ連れて帰り目通りをさせると、この男は相撲が得意だということで大名は大喜び。早速その腕前を確かめようと試みますが…。

※太郎冠者：最も古参の召使

能に親しむ  
能楽ワークショップ  
(全3回) 参加者募集

演能会をより楽しむための講座です。(参加無料)

講師

シテ方金春流・櫻間右陣師

第1回 能楽鑑賞入門講座

能の基礎知識について

とき 9月5日(金)

午後7時～9時

ところ 厚生会館

第2回 八代演能会「枕慈童」鑑賞の手引き

とき 10月8日(木)

午後7時～9時

ところ やつしろハーモニーホール

第3回 能楽鑑賞入門講座

装束について(着付実演付き講座)

とき 10月30日(木)

午後7時～9時

ところ やつしろハーモニーホール

※各回開催日の前日までに電話でお申し込みください。

お申し込みください。

申込・問合せ

文化まちづくり課 ☎334533

## Sakurama Ujin Profire

昭和36年生まれ。櫻間家21代当主。人間国宝・故櫻間道雄の初男子孫で、叔父・金太郎と道夫の嗣子となる。重要無形文化財総合指定者。

左陣、三川(芸術院会員)、金太郎、道雄と能楽界に名を残す櫻間家において、家芸を継承し能楽の普及に努める。

4歳から稽古をはじめ、同年、初舞台。平成16年1月1日、櫻間家代々の当主名「右陣」を襲名。国内公演のほか海外公演も多数。また、復曲や新作活動も意欲的に行っている。

櫻間家は、肥後細川藩に能楽師として仕えた家柄で、八代・松井家もまた能楽を深く愛好し交流を重ねている。



シテ方金春流  
さくらま 右陣